



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために



第7回例会 2021.10.27 (水)

■出席率 会員70名中 54名出席 77.14%
修正60名出席 85.71% メイクアップ6名

◆会長挨拶 一條 浩孝 会長

今日は新会員歓迎例会です。

私も新会員であった頃を振り返ってみますと、まず会員の皆さんのお名前とお顔を一致させることに大変苦労しました。名簿片手に半年はかかったように思います。



例年ですと9月には新会員歓迎夜間例会があつて、お酒をいただきながら歓談するわけですからお互いを知る絶好の機会でした。ところが今はマスクをしていますので顔は半分しか見えませんし、顔を見せてお話することも出来ません。このような状況下で新会員の皆さんはさぞかし苦労されていることと思います。

ただ言えることは声を掛けてくださった方など、接点のあった方から覚えていったのは間違いなくと思います。先日新会員の渡邊勝さんとお話したときに、面白いことをおっしゃっていました。「自分のことを間違えて覚えていた人のことは覚えました」。なるほど、そんなこともあるんですね。間違われたことを笑ってプラスに捉える渡邊さんも素晴らしいですし、積極的に声をけることの大切さも再認識いたしました。

知らない単語にも戸惑いがあると思います。パストって何？エレクト、ノミニーって何？と言ったことのようにです。ここはロータリークラブですが、人によってロータリーの知識についても浅い深いは当然あると思います。私も知らないことがまだまだ沢山ございます。ただ、知らない方がいらっしゃるのだとすれば、それは知っている方が教えていないから、そう捉えることもできるのではないのでしょうか？あるいは教え方にも工夫が必



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために



要だったのかも知れません。「見て学べ」「長くいれば分かる」というのではなく積極的に教えてあげることが大事だと思います。知らない方がいらっしゃるとするならば、それは知っている方の方にも責任がある。そう考えるようにした方がよろしいのではないかと思っています。

今日は新会員歓迎例会として新会員の皆さんを歓迎し、これからのロータリー活動のお役に立てるように、先輩会員による新会員向けのスピーチを3名の方にしていただくことになっています。準備は親睦活動委員会の皆さんにお願い致しました。どうやってクラブに馴染んでいったのか、そんなお話をさせていただくことになっています。担当される皆さんよろしくお願い致します。

そして今日は4人目の新会員の宮城貴志さんにもスピーチしていただきます。楽しみにしておりますので、よろしくお願いいたします。

また、例会後にはロータリーセミナーも控えておりますので、こちらも合わせてご参加いただければと思います。

◆ターゲット贈呈

一條会長から松崎弘昭直前会長にターゲットが贈呈されました。

松崎弘昭直前会長 1年間たいへんお疲れさまでした。





奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

◆新会員スピーチ 4



宮城貴志新会員からスピーチをいただきました。



～私を知っていただくために～

皆さんこんにちは。この度入会させていただきました宮城貴志です。
近畿日本ツーリスト株式会社福島支店で支店長をしております。
本日は貴重なお時間を頂き「私を知っていただくために」、少し自己紹介をさせていただきます。宜しくお願いいたします。

まず私共近畿日本ツーリストについてお話をさせていただきます。

私共近畿日本ツーリストは創立66年目を迎える全国にリアル店舗を持つ総合旅行会社として旅行の販売を中心に事業を行っております。

昨今では旅行業務以外に地方創生に関わることや移住定住を促進する事業、地域資源の磨き上げ・ブランディングを行ったり、海外ビジネス商談会開催など、あまり旅行とは関係のない事業も多くお手伝いをさせて頂いております。

また昨年からのコロナウィルス発生後においては、これまで弊社が事業を通じて培ってきた「ホスピタリティー」、「コミュニケーションスキル」を活かしてワクチン接種会場の運営業務やテレフォンセンター業務などのBPO業務の取扱が事業における大きなウェイトを占めるようになってきました。

販売する商品に関しても旅行以外に従来から販売している「ボジョレーヌーボー」や「全国のおせち」の他に「PCRや抗原検査キット」、「サーマルカメラ」の販売なども行っています。



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために



今、弊社は新たな事業領域へチャレンジをしつつ、本業である旅行需要の回復が1日も早く訪れることを願い日々業務に取り組んでいるところです。

次に私自身について話をさせていただきます。

私は昭和44年11月生まれで来月52歳になります。

出身は新潟県弥彦村で、初詣参拝者が県内で一番多い越後一宮弥彦神社や弥彦温泉があり、近隣には魚市場で有名な港町「寺泊」もあることから比較的観光客で賑わいのあるところになります。

家族構成は妻と高校生の長男、中学生の長女の4人家族で自宅は新潟市にあります。ここ福島へは単身でやってまいりました。

今回、福島南ロータリークラブ皆様の仲間に加えていただき、この活動を通じて「地域に貢献」していきたい、また自分自身の成長していきたい、そしてなによりロータリーの活動を通じて福島をもっと知り、楽しんでいきたいと思っています。

最後になりますが、諸先輩方とのご縁を大切に、皆様からの御指導を頂き、勉強させていただきたいと考えております。

本日は貴重なお時間を頂き、ご清聴いただきまして誠に有難うございました。

◆新会員向けスピーチ

齋藤弘之親睦活動委員長の進行により、3人の会員からスピーチをいただきました。

■松山敏博会員

ロータリー活動で自分が大切にしていることをお話しします。

一つ目は、四つのテストです。コピーして会社の部下にも配り、言葉をしっかりと理解したいと思っています。

二つ目は、例会、委員会、イベントなどにできる限り参加することです。先日も青少年奉仕委員会のインターアクトのテーブルマナー講座に初めて参加したいへん勉強になりました。





奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために



■菊地和宏会員

新入会員の皆様、改めて入会おめでとうございます。

皆様に以下3つの事についてお話をさせていただきます。

1. RC入会の動機
2. どのようにしてRCに馴染んでいったか
3. RCに入会したからこそ得られたもの



1つ目、入会動機

私の入会は、平成26年7月、推薦者は、今は亡き富田健三郎さんです。富田さんは、福島リトルリーグ野球協会の会長として活躍されていましたが、20年程前、新たに中学生の福島リトルシニアチームを立ち上げることになり、私はその時から副会長としてお世話になっておりました。

当時、私は倫理法人会に入っており、富田さんをお誘いしたいと考えておりました。何度お誘いしても返事がもらえず困っていたある日、富田さんと当クラブの元会員FMポコ社長、菅原節子さんと共に私の所に来ました。

菅原さんは、当時私の患者さんで、しかも同じ倫理法人会の会員だったので、3人で気安く世間話をしていました。ところがいつの間にか気がつく、攻め技を掛けていた私に、挟み撃ちの反則技を掛けられ、あっという間に一本負け、訳のわからぬうちに私は落とされてしまったようです。その後、7月の第一水曜日にサンパレスに来るように言われました。正にプロのアナウンサーが台本の台詞通りに司会進行を成し遂げたということでもあります。言われた通り、サンパレスに出向いて会場に入ると、お決まりの全員起立、拍手のお出迎え、正直、とんでもない所へ来てしまったと、後悔しましたが、もうすでに時遅し、私の入会は、あっさりと決まってしまったのです。

富田さんからは、例会はできるだけ出席するようにと言われ、時間をやり繰りしながら、なんとか出席していました。

2つ目、どの様にしてRCに馴染んでいったのか？

入会して3ヶ月の頃、治療室に患者さんを残し、毎回、後ろ髪を引かれながら例会に出かける事がとても苦しくなっていました。

そんな時、たまたま同席した林さんから「菊地さんどう？RCに少しは慣れた？」と聞かれました。私は正直に「実は、現場を抱えているので、毎回の例会参加はとても厳しく、クラブをやめざるを得ないと考えています」と、悩みを打ち明けました。すると、林さんは、「そ



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

れ、みんな同じだから。皆現場を抱えている人ばかりなんだよ。どうしたら、例会に参加できるか、周りの人達に聞いてみるといいよ」とさらりと言われました。聞いた人が間違っていたと思いました。

それでも、言われた通り、その後、数人にその事を尋ねてみました。

分かった事は、皆、足元を固めているという事でした。

しかし、自分を振り返ってみると、足元が全く固まっていない事に気づきました。自分の場合どうしたら、例会参加ができるだろうか？自問自答しました。

その結果は、「周りの人達に諦めてもらうこと」です。すなわち、現場のスタッフ、患者さん、そして、女房です。この三つめが一番苦労しました。

「院長は当てにならない」となれば、現場のスタッフは、「自分達が何とかするしかない」患者さんは、「院長がいなくても、現場スタッフで大丈夫」そして、嫁さんは、「夫が当てにならないなら、自分が何とかするしかない」という諦めによる意識改革です。

お陰様で、周りが少しずつ成長してくれました。

当初、例会参加は苦痛でしかありませんでした。名前も顔もわからない方々ばかりでしたので、必ず会員名簿を持参し、名前と顔を確認していました。しかし、私が入会した当時は、各委員会では、事業の打ち合わせや反省会などは、飲みニュケーションがつきものでした。また、国際大会や家族旅行など多くのイベントがあり、そのほとんどが飲食を伴うものでした。コロナ禍の今とは全く真逆で、今思えば、同じ釜の飯を食う事を頻繁にやっていたのだと思います。

特に、入会間もない頃、国際大会の参加勧誘がありました。団長だった野地さんに「菊地さん、もちろん参加するんだべ」と言われ、「いや、一週間の休みは取れないですよ」とお断りをしたら、「あらら、新入会員は国際大会の参加は義務なんだよ。そういう決まりがあるんだけど、富ちゃんに聞いてなかったかい？」と言われ、素直な私は何とかやり繰りをし、国際大会に参加しました。今振り返ってみると、だまされてよかったというのが正直なところ。約一週間、寝食を共にすることで、何も知らなかった私を皆さんが仲間として快く迎え入れてくれました。

3つ目、RCに入会したからこそ得られたもの

年齢、職業、経験、価値観などが違う多くの方々との出会いであります。特にRCに入らなければ、絶対に出会うことのない方々や著名人などと、比較的容易に交流できる事など、多くの得るものがあります。また、人の話を聞く機会が多いので、自分がお話をする際の勉強になる事など、数えればキリがありません。

詰まるところ、RCは単なる奉仕団体に留まらず、生涯をかけての自分磨き、いわゆる「人生の道場」そのものだということでもあります。今まで仕事にどっぷり浸かっていた私にとっては、RC活動そのものが、全て新鮮な刺激であり、勉強であります。

生涯を通しての職業、家庭、生きがいなどについて、時々自分の立ち位置を俯瞰することが



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために



できる様になりました。

私は、超我の奉仕を「たらいの水」と置き換え、水に向こう岸に追いやればやるほど、回り回って手元に戻ると理解しています。

クラブの会員は、クラブ内では一会員ですが、一歩出れば、社長であり、経営者、組織のトップであります。RCに参加するもう一つの意味は、トップと新入社員の新鮮な気持ちを同時に持ち続けることができるということでもあります。せつかく縁あってこの空間と時間を共有できた皆さんとは、すでに同じ船に乗ってしまったのです。乗ってしまった以上、生涯の船旅を是非とも一緒に楽しんで参りましょう。

今後とも、末永く宜しくお付き合いの程お願い申し上げます。

■松崎弘昭会員

初めてのロータリー

新会員の方々には、初めてロータリーに触れて、聞いたこともない言葉が次々に耳に入ってきて、また、いろいろなロータリーのしきたりに戸惑いを感じていると思います。



私自身も、初めの頃は聞きなれないロータリー用語に中々馴染めなくて、また、毎週の例会でも、その進行具合に、ある種のカルト宗教的な思いをしていました。そして、極めつけは、親睦行事などの終わりに、いい大人がみんな手を繋いで輪になって歌うことにはびっくりしたものです。近頃はコロナ禍にあって手を繋ぐ機会はありませんが、慣れというのは恐ろしいもので、何年も経つうちに何の違和感も無くなって楽しく手を繋いでしまうようになります。

そのうち分かる

少し前のロータリーの中では、新会員が先輩に何かを聞いても、「そのうち分かる」と言われていたようです。同じように職人の世界でも師匠は何も教えず「見て覚えろ」「技は盗むものだ」と言われてきましたが、時代が変わってきた現代では、良いか悪いかは別として合理的な考え方が主流になっているようであります。



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために



ロータリーはアメリカが発祥の地で全世界に広がったものですので、グローバルという意味でも横文字の言葉が多いのですが、私も入会して17年以上経ちますが、今でも分からないことが多いのが現状であります。

例えば、地区のガバナー(調速機)とかガバナーノミニー、ガバナーデグジネートが横文字で、クラブの会長、幹事が日本語なのは何故なのだろう。会長経験者をパスト会長というのに、昨年の会長を直前会長と言ったり、考えてみると訳が分かりません。

クラブに入会すればロータリアンなのか

クラブに入会して会費を納めて、例会に出席し、機関紙を購読してれば、普通に言われているロータリアンになるわけですが、真のロータリアンというか立派なロータリアンということになれば、単純にクラブに入会して何年経ったからといってなれるわけではありません。もっとも、真のロータリアンなどという定義はありませんが、巷では、出来の悪いロータリアンを捕まえて、酔っ払いのロータリアンをヨータリアンと呼び、何も知らないロータリアンをプータリアンと揶揄するようなこともあるようです。

人間、死ぬまで勉強、死ぬまで成長。と言われているように、真のロータリアンになるには、謙虚な学びと成長が必要なようです。

私も昨年は、会長という重責を頂いたわけですが、その立場に見合った真のロータリアンだったかという点と甚だ疑問が残る訳で、真のロータリアンを夢見る「途上人」といったところでありましょうか。

知り合いを広める

ロータリーの目的を達成するための一つの要素として「知り合いを広める」というものがあります。この知り合いを広める機会は、全世界的に広がっているのですが、まずは、入会したクラブの会員から少しずつ広めて行くのが一般的なのだろうと思います。

では、どうしたらクラブ内で知り合いを広めることができるのかということになりますと、例会出席は勿論ですが、所属する委員会の会合、セミナーや奉仕活動、そして親睦行事に積極的に参加してコミュニケーションを図ることが大事なのだろうと思います。

コミュニケーションを円滑にすることで、お互いの気心が知れてくる。そうなれば、それ



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために



なりの自分の居場所が出来て、居心地も良くなってくるのだと思います。ですから、まずは、積極的にいろいろなものに参加していくことから始めれば良いのではないかと思います。

ロータリーの中核的価値観

ロータリーには大切にしている価値観というものがあります。特に大切にしている価値観がロータリーの中核的価値観です。

ロータリーの目的達成の要素である「知り合いを広める」ことについて、この知り合いを広めるためには、質の高い親睦を深める必要があります。そして、質の高い親睦を深めるには、相手に対して嘘偽りの無い自分でいなければなりません。これが高潔性となります。そして自分とは違う性格や考え方を持つ相手を認める寛容な心を持つこと。これが多様性になります。

これらの親睦、高潔性、多様性を大切にして奉仕を実践する。そして、奉仕の実践のためにリーダーシップを発揮することが、ロータリーが最も大切にしている「中核的価値観」ということになります。

ロータリーを学ぶということ(まとめ)

ロータリークラブに入会した時の挨拶は、大体、これから先輩方にご指導頂きながらいろいろと勉強してまいります。というのが一般的に多いようです。でも、ロータリーを学ぶといっても、実際には何を学んでいくかということになるわけですが、その答えは、故佐藤ただしさんの書かれた冊子の中にありましたので紹介したいと思います。

それは、先ほどお話ししたような難しい用語とか、しきたりや組織がどうなっているかのロータリーの知識を増やしていくことではなく、ロータリーの理念、つまり、「他人を思いやる心」を磨き続けることが「学び」だと言っておられます。

職業人である私たちが、ロータリーを通してリーダーとしての心を磨き、それぞれが自分の置かれた仕事場や地域社会の一隅に小さな火を灯して行く。そして、その一人ひとりの「思いやり」の積み重ねが、ロータリーが目指す世界平和へ繋がっていくものだと思います。これは、簡単なようで中々難しいことではありますが、やり続けることに意味があるのだと思います。



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために



そんなことを頭の片隅に置きながら、新会員の方々と共に皆でクラブを楽しんでいきたい
と思います。

最後に、私の経験から新会員の方々にロータリーを楽しむコツをお伝えしたいと思います。
それは、ロータリーが楽しくなるまでロータリーを続けることです。これから一緒にロータ
リーを楽しんで行きましょう。

- ◆次回例会 第8回（代替） 2021. 11. 7（日） 13：00 YouTube 視聴
・ 2021-22 年度地区大会（いわき秀英高校）

以 上



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために



◆ロータリーセミナー 初瀬 照夫 様 (郡山RC)
(国際ロータリー第2530地区 職業奉仕委員会委員長)

～ バッジは見ている ～



初瀬照夫地区職業奉仕委員長から、新入会員も含めた私たち福島南RCの会員が「立派なロータリアン (松崎直前会長の言う「真のロータリアン」)」になるためにたいへん貴重なご講演をいただきました。

ロータリーの原点・目的は「奉仕の理念」を実践することであり、職業奉仕(「みんなが良くなって初めて自分が良くなる (利他)」)を通じて自分を磨いていきましょう。

ロータリーに仕事を持ち込むな

ケチな考えを持ち込むな

そんなものは後からついて来る

以上